

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

結果を残した部が良い部なのか

校長 香西 雅斗

今年は久しぶりに「梅雨の長雨」「梅雨寒」という言葉が当てはまる天気が続いています。梅雨明けはまだ先になりそうですが、科学と自然の散歩みちでは、夏の花の百日紅（サルスベリ）や夾竹桃（キョウチクトウ）が咲き始めました。

さて右の写真は、この1年間に運動部が勝ち取ったカップと旗です。

○陸上部が平成最後の杉並区陸上競技大会で男子・女子・総合ともに優勝。

○バスケットボール部が平成最後の杉並区新人大会で男子が優勝、令和最初の杉並区夏季選手権大会で男子が優勝、女子が準優勝、共に都大会進出。

○野球部が令和最初の杉並区野球選手権大会で優勝し都大会進出、この他わかば杯、あおば杯でも優勝。

カップなどはありませんが、吹奏楽部も平成最後の東京都の吹奏楽コンクールで金賞を獲得しています。（これらのカップや旗は、次の大会の初めに返還します。）



これから最後の大会を迎える部もありますが、熱戦を繰り広げながらも力及ばず敗退した部もあります。そこで表題の「結果を残した部が良い部なのか」です。

“勝ったクラスが良いクラスでそれ以外はだめなクラス”が間違っているのと同様、“結果を残した部＝良い部”ではありません。では良い部とはどんな部なのでしょう。

大会での勝利を目指す部で、部員が多い場合、公式戦どころか練習試合にもあまり出場できずに最後の大会を迎えるメンバーもいます。そんな、部の中で一番つらい思いをしている者が「嫌なことも多かった、楽しい事よりも大変なことが多かった。でもこの部で良かった、この部の仲間たちと一緒にいてよかった」と思えるのなら、例え賞状がとれなくても、良い部と言えるのではないのでしょうか。

もう一つ、運動部には最後の試合があります。最後に勝って終われるのは、全国大会優勝の1チーム（個人戦なら1人）だけです。残りのチームは、たとえそれが1回戦目であろうが、全国大会の決勝であろうが、最後は負けて終わるのです。

その最後の試合で、バレーボールなら「どうか自分の方にボールが来ないでほしい」とか「相手のミスを期待する」のではなく、自分の中の恐怖をコントロールし、あきらめず、練習してきたことを出し切り、最後まで相手に向かっていく、そんな後ろ姿を後輩たちに見せられる部は、最高の部だと思います。

勝利を目指す部においても“勝つことよりも大切なこと”が確かにあるのです。

修学旅行

修学旅行は天候に恵まれました。6月5日（水）の初日は晴れの奈良公園で班行動。二日目は最初に体験学習を行い、その後は京都で一日班行動。三日目だけは雨模様でしたがタクシーを使い京都の班行動だったのでそれほど影響を受けませんでした。学年主任の宮越先生の文を紹介します。

「君たちが訪れた奈良・京都の文化は人間が作ったものだ。それが自然と調和しているとき、銀閣寺や龍安寺で感じたような安らぎが生まれる。三十三間堂の観音像や興福寺国宝館の阿修羅像の精密さには圧倒される。

なぜこれだけのものを作り上げられるのか。そこには『願い』や『思い』がこめられているからだろう。体育大会でクラス旗を作ったとき、君たちは手を抜かなかったはずだ。『みんなの願い』をこめるものに手を抜く…それは願いがかなえられないことに通じるように感じるからだよね。

『願う』力や『思う』力はとても強い力であるということだ。修学旅行を終えて、これからの残された中学校生活で勉強はもちろん、係活動や清掃などに手を抜かず精一杯取り組むことができれば、素晴らしい中瀬中の文化を築いていけるに違いない。

今まで育ててくれた周りの人々の「願い」や「思い」をもう一度思い起こしてみよう。『感謝の心』が君の『願い』や『思い』の力をひき出してくれるはずだ。」



<友禅染の体験>



京都への愛を感じた 三C 田中 伶明
修学旅行で最も印象に残った京都の文化は、食文化、伝統工芸、建造物の三つです。
食文化は、抹茶、うどんなど様々な京都の味を楽しみました。抹茶は、八つ橋、ソフトクリーム、グリーンティなどいろいろな商品に変化して人気を集めていました。このように日本の文化と新しい物を合わせることによる今までにない食文化は、日本人だけでなく外国人も引きつけるのだと実感しました。
伝統工芸では、京友禅染めを体験しました。苦戦したところも多々ありましたが、とても美しくできあがりしました。技術が進歩しても、伝統工芸の変わらない美しさと、その伝統を守る職人の方々に魅力を感じました。
建造物にも目を引かれました。品を感じさせる寺、神社や民家だけでなく、コンビニやホテルなども昔ながらの家の造りや色使いをとり入れている建物がたくさんありました。時代が進んでも、京都の歴史を感じさせる風景を守るといふ京都への愛を感じました。
修学旅行で様々なことに興味をもちました。これからもいろいろなことにチャレンジしていこうと改めて思うことができた、楽しい旅になりました。

フレンドシップスクール

フレンドシップスクールも天候に恵まれました。

7月3日（水）の一日目、ゆのたにキャンプ場に到着する頃には青空が見え、煙と格闘しながらカレー作りを行いました。飯盒



<若栢地区での出迎え>

に水を入れ忘れたことに途中で気付いた班や、カレーに水を入れすぎて煮詰めるのに時間がかかった班などありましたが、みんなでおいしくいただきました。



<飯盒でご飯、鍋でカレー作り>

その後、小千谷に移動し体育館での開村式で、お世話になる農家の方と一緒に、それぞれの家に分られました。

二日目、前夜に降った雨も朝には上がりました。それぞれの農家で、貴重な体験をさせてもらいました。

例えば…野菜やブルーベリー・梅の収穫・大豆の選別・草刈り・野菜の種まき・花の植え替え・バーベキュー・肝試し・ちまき、笹団子・いなり寿司、餃子作り・流しそうめん・山歩き・歴史博物館見学・方言トランプ・水力発電所見学・花火・町内鬼ごっこ・竹細工作り・山寺でのヨガ・ホテル、アルパカ、牛、カエルなど生き物とのふれあい…



三日目、お世話になった農家の方と別れ、中越大震災の教訓を学ぶ「そなえ館」の防災プログラムに参加しました。地震の仕組みや備え、身近なもので作る防災グッズなどを行いました。その後、錦鯉の見学とお土産を買いました。

生徒たちにとって、心のふるさととなる、素晴らしい三日間となりました。

<そなえ館での、地震動疑似体験と、防災グッズ作り>

僕はフレンドシップスクールで自然の美しさや農業の大変さ、食物を食べられる喜びを学びました。僕はこの三日間で大きく成長したと思います。

フレンドシップスクールの前は、あまり積極的ではなく、人の手伝いなどは一切やらない派だったのですが、宿泊先のお母さんの何をやるためにここに来たのか。」という言葉が刺さってすくく印象に残りました。あの一言がなければ、僕は変わっていませんでした。

僕が、農作業の時、疲れたなあ。」と言うと、お母さんに「天下の中、朝から晩までやってんだ。だから、たった三十分で疲れたって言うんじゃない。」と言われました。これも印象に残って、忘れられない一言になりました。お母さんの言うことが当たり前すぎて、そつだなああと考えさせられました。お父さんに質問して、それだけ農家を続けていらっしやるんですか?と聞いた時、五十年やってい。」と言われました。僕はすごいなあ」と驚きました。五十年もやっているなんて予想もしていませんでした。

小千谷はすごく空気がおいしくて、びっくりしました。東京よりずっと涼しくて、クーラーがいらないくらいでした。青々とした山が見えて、気持ちも落ち着かせてくれました。ゆっくり時間が過ぎていって、充実した三日間を過ごしたと思います。小千谷はすごくいい町だと思います。また小千谷に行く機会があるなら行ってみたいです。このフレンドシップスクールでの体験を今後の人生に生かしていきたいです。そしていつか、小千谷に住みたいです。 — C 佐野 葉一

山古志で過ごした三日間は、今まで経験したことがないくらい、家のことを忘れてしまふほど楽しいものだった。親戚ではない、知らない人の家に泊まることはもちろん初めてのことだった。けれど、宿泊先の方は、とても優しい人たちで、楽しく話したり、お手伝いをしたりなど、とても仲良くなることができた。また、色々な思い出ができた。

二日目、私の中で印象に残っているのは牛を見に行ったことだ。お父さんが牛舎から牛を出してくれた。今まで近くで牛を見たことはなかったけれど、まさかこんなに大きいとは思ってなくて、とてもびっくりした。牛、でっかいね!とみんなが話したり、しっぽで体をたたかれて「ギャー!」と言って笑ったりなど、とても楽しかった。また、牛は思ったよりおとなしくて、とても優しい顔をしていた。

その後、山の上のほうへ行き、景色を見に行った。車を降りた瞬間「わあ〜!」といながら景色を見た。空はちょうど夕暮れで、川がキラキラ輝いていた。ねえ、なんか叫ばない?「いいね!」と言いい、みんな「星見せ〜!」と叫んだ。遠くの山から声が跳ね返り、とても声が響いた。夕飯を食べて、外で宿泊先の子たちと花火をしている時に空を見上げると、曇りの予報だったが、少し空が晴れて星が見えた。

その日の夜、私たちの班は宿泊先の家の方達に手紙を書いた。みんな、楽しかった。「まだ良かった。」などを話しながら、それぞれ色々なことを手紙に書いた。次の日の朝、その手紙を渡すと、とても感動してくれた。そして、夏休みにまたおいでね。」と言われた。みんなで「うん!絶対行こうね。」と約束した。 — E 中尾 優花

環境チェックシート

今から10年前の平成22年に杉並区の中学生は、区内NPOのファシリテーターの協力を得て、環境チェックシートを作成し、区内の全中学校で取り組み、その結果を発表しました。これが『中学生環境サミット』の始まりで、現在は小学生も参加しています。

中瀬中は、桃井第五小学校と八成小学校と連携して、チェックシートの取組を続けてきました。最初は生徒会本部役員が中心でしたが、5年前からビオトープ委員会が中心となり、昨年はフードロスをチェック項目に入れるなど改善を進めました。



＜7月17日の朝、沓掛小で説明するビオトープ委員＞

今年も沓掛小とも連携します。以下が小学生に説明したチェックシートの狙いです。

<ul style="list-style-type: none"> ①「マイバッグや水筒を持って、レジ袋やペットボトルや缶飲料などを使わない。」 →家庭から出るごみの量を減らす。 ②「クーラーの温度を低くしすぎず、うちわや扇風機、暑さ対策グッズなどを一緒に使う。」 →電気を節約し発電所ででる二酸化炭素を減らす。 ③「水はむだづかいせず、再利用(洗たく、植物のみずやりなど)を心がける。」 →節水して環境を守る。 ④「石けんやシャンプーを流しすぎない。」 →下水で海を汚さないようにするため。 ⑤「紙はむだづかいせず、古紙は回収に出す。」 →リサイクルして紙を燃やす量を減らす。 ⑥「使い捨てのプラスチック製品を使わないようにする。」 →海で増えているマイクロプラスチックを出さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「朝・昼・晩と食事を残さず食べられたか。」 →食事を残さず、食べ残しを減らす。 ②「消費期限と賞味期限を理解し、無駄にしない。」 →食べられる食材を無駄にしない。 ③「棚の手前に並んでいるものを選んで買う。」 →期限が近い食品を買い食品ロスを減らす。 ④「食品の保存方法を工夫した。」→冷凍や保存食を作り、捨てるなどの無駄をなくす。 ⑤「野菜や果物の皮、魚の皮骨の食べられるところを食べた。」→食べられるところは食べることを意識。 ⑥「フードドライブについて知り、寄付できる物を探す。」 →自分にできることを考え実行する。 寄付が難しい人も今回のことで少しでも寄付ということを身近に感じてほしい。
---	--

また、昨年に引き続き10月13日(日)の中瀬フェスタでフードドライブを実施することや、給食委員会の「残飯ゼロ」を目指して、給食の準備を早くする取組などを紹介してきました。

1月19日の環境サミットの後、ビオトープ委員が各小学校に行き、小学生に報告する予定です。



＜2年 社会保険労務士による職場体験事前学習＞



＜1年 国会図書館の本を使って理科の調べ学習＞



＜社会を明るくする運動のテッシュ作りボランティア＞



＜桃五小お祭りボランティア＞



＜レスキュー隊発足式と訓練＞



＜沓掛小お祭りボランティア＞

前回の便りの全校道徳ワークシートの紹介で、ミスがありました。訂正願います。
「1A 内藤早苗」
↓
「1A 内藤早希」

※8月13日(火)～16日(金)は杉並区立小中学校の閉庁日で教員は出勤していません。